

# まなび通信



- ◆ 最上教育事務所研修通信  
第 7 号
- ◆ 令和2年11月5日
- ◆ 最上教育事務所指導課

## もがみ授業改善研修「プロジェクトM」算数授業研究会 兼教職5年経験者研修授業研究会

10月8日（木）に、もがみ授業改善研修「プロジェクトM」算数授業研究会兼教職5年経験者研修を行いました。授業者は、新庄市立萩野学園の加藤ふみの先生です。

「データの活用」に関する領域で、小中の系統性を踏まえた授業を提案していただきました。

また、コロナ禍の中で集合型研修が軒並み中止になっている中開催した授業研究会では、意欲的に事後研究会が行われ、学びの多い研修会にすることができました。さらに、会場を提供いただいた萩野学園におかれましては様々な御協力をいただき、誠にありがとうございました。



<单元名>

※詳しくは別添指導案を参照ください。

第5学年「ならした大きさを自分の生活に生かそう！」

### 本実践から学んだこと

#### ☆ 課題提示の工夫について

- ・ 7月の大雨災害で学校が断水し臨時休業になったとき、児童が抱いた「一日どのくらい水を使うのだろうか？」という疑問から課題が設定されていた。

日常的な教材で、児童の疑問から出た課題だったため、自然と自分事として課題解決に向かう姿があった。

#### ☆ ICTの活用について

- ・ 自作の映像で、「ならず」日常場面や積み木の操作を提示し、本時の課題の解き方や考え方を共有するための手立てが有効であった。可視化することで児童の活動を支えるものとなっていた。

大がかりなものではなく、意図を明確にしたICTの活用が児童の学びを深めるためには重要である。

#### ☆ 振り返りの充実 ～「算数日記」の活用～

- ・ 学びの足跡として、どんなことを学んだのか、どのように考えたのか、どのように間違ったのか、どのようにわかったのか、など授業であったことを記録することで、前に学んだことを振り返ることができる。また、新しい問いに出会ったとき、以前の学びを生かして自分で課題に向かうことにつながる有効な取組である。



## 山形大学教授

### 大澤弘典先生からの指導・助言



#### ① 課題解決の必然性を吟味すること

課題「～しましょう」は要注意。「なぜこんなことをするの?」「これをしてどうするの?」と児童にとって「明らかにさせたい!」「どっちが正しいか知りたい!」などと思える課題にしていくこと。つまり、**問題解決の必然性**があるかどうかの吟味が必要になる。身近な題材であることはもう当たり前として、解決する必要感のある課題について、さらに教材研究を充実させていくことが必要である。

#### ② 判断、意思決定するためのデータの活用を

「データの活用」の目標に、照らして

・ **目的に応じて** (こういうものをしてい!という思いから、データを活用していくこと)

・ **批判的に考察** (多面的によりよく判断すること)

することが大切であり、このような**数学的な見方・考え方**を働かせることが重要である。そして「意思決定するためのデータの活用」につなげていきたい。

#### ③ 新学習指導要領から

授業づくりの新しい視点として、

指導 ⇔ 評価

(プログラム型カリキュラム)

※プログラム型 = 階段型、習得と定着

目標・達成・評価



挑戦 ⇔ 省察

(プロジェクト型カリキュラム)

※プロジェクト型 = 登山型、思考と探究

主題・探究・表現

これまではプログラム型。これからは、プロジェクト型を取り入れ、協力して解決する問題解決学習を。プロジェクト型は、何回も学び直すチャンスがある。

#### ④ 算数の授業は、考える場(問うべき問いを問い続ける場)

「考える」とは、自ら問いを持ち、自立的・協働的に自ら答える営み

「数学的に考える(問う)」・・・①事実を考える(What) ②手順を考える(How)

③根拠を考える(Why) ④仮定して考える(If)

特に、「if」仮定して考えることを大切に。

#### ★参加者の声

○ 若手の先生の新鮮な授業を拝見でき刺激になりました。問題を解決する必然性であったり、グループや全体での話し合いの必要性だったり「何故、学ぶのか」という学習の本質について多く学ぶことができました。(小学校教育マイスター)

○ 課題設定では、いかに子どもたちが必要感を感じることができるかがポイントだと感じました。本質に迫りながら、子どもがまよいながらも、解決できるようにしていきたい。(5年研修者)

○ プログラム型からプロジェクト型の授業へというお話が印象に残りました。「～しましょう」「～してみよう」という教師主導の授業展開になっている自分の指導を振り返り、必要感がある課題設定を工夫していきたいと思いました。日常の中に、実はもっと掘り下げるべき問題があるかもしれないので、子どもたちと一緒に「揺らぎ」「戸惑い」を肯定的に捉えながら授業づくりをしていきたいです。指導要領や自分が伝えたいことをもっとシンプルになるまで突き詰めていきたいです。(5年研修者)

